

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成 29 年 4 月 13 日 (2017.4.13)

【公開番号】特開 2016-94089 (P2016-94089A)
 【公開日】平成 28 年 5 月 26 日 (2016.5.26)
 【年通号数】公開・登録公報 2016-032
 【出願番号】特願 2014-231027 (P2014-231027)
 【国際特許分類】

B 6 2 D 25/04 (2006.01)

【F I】

B 6 2 D 25/04 C

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 3 月 7 日 (2017.3.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車体を構成するセンターピラーの下部をサイドシルに結合した車体構造であって、
 前記センターピラーは、車幅方向に延びる一対の幅壁と、車両の前後方向に延びてこれら一対の幅壁を繋ぐ前後壁と、前記前後壁に形成された凸形状の補強用ビードと、を備えたセンターピラーリンフォースを有し、

前記センターピラーリンフォースは、前記サイドシルを形成するサイドシルリンフォースに対して複数箇所ですポット溶接することにより結合されており、

前記補強用ビードの周囲に形成される前記スポット溶接の各打点が、前記補強用ビードの稜線から均一な距離となるように配置されている

ことを特徴とする車体構造。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の車体構造において、

前記補強用ビードの下端部は、半円形状に形成されている

ことを特徴とする車体構造。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載の車体構造において、

前記補強用ビードは、車両前後方向で複数並設され、

前記補強用ビードの間には、前記補強用ビードの下端まで連続するビードが形成されている

ことを特徴とする車体構造。

【請求項 4】

請求項 1 から 3 の何れか一項に記載の車体構造において、

前記補強用ビードの上端側は、前記センターピラーリンフォースの前記前後壁と前記幅壁との角部に向かって延設されている

ことを特徴とする車体構造。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 9 】

上記課題を解決する本発明の第 1 の態様は、車体を構成するセンターピラーの下部をサイドシルに結合した車体構造であって、前記センターピラーは、車幅方向に延びる一対の幅壁と、車両の前後方向に延びてこれら一対の幅壁を繋ぐ前後壁と、前記前後壁に形成された凸形状の補強用ビードと、を備えたセンターピラーリンフォースを有し、前記センターピラーリンフォースは、前記サイドシルを形成するサイドシルリンフォースに対して複数箇所でスポット溶接することにより結合されており、前記補強用ビードの周囲に形成される前記スポット溶接の各打点が、前記補強用ビードの稜線から均一な距離となるように配置されていることを特徴とする車体構造にある。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 0 】

本発明の第 2 の態様は、第 1 の態様の車体構造において、前記補強用ビードの下端部は、半円形状に形成されていることを特徴とする車体構造にある。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

本発明の第 3 の態様は、第 1 又は 2 の態様の車体構造において、前記補強用ビードは、車両前後方向で複数並設され、前記補強用ビードの間には、前記補強用ビードの下端まで連続するビードが形成されていることを特徴とする車体構造にある。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 2 】

本発明の第 4 の態様は、第 1 から 3 の何れか一つの態様の車体構造において、前記補強用ビードの上端側は、前記センターピラーリンフォースの前記前後壁と前記幅壁との角部に向かって延設されていることを特徴とする車体構造にある。